

平成29年10月25日

## 平成29年度 第1回「学校関係者評価委員会」中間報告

### 1 概要

(1) 日時 10月25日(水) 15時30分～17時00分

(2) 場所 広島城北中・高等学校 第2会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員 三田戸坂城山小学校長(欠席)

丹戸坂中学校校長

佐伯同窓会長

藤井PTA会長

教職員

岩本校長

藤田副校長

中川教頭

二宮総務部長

大下教務部長

村上進路指導部長

宮本生徒部長

堀江入試広報部長

ブランチ国際部長

### 2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介後、各部から学校経営計画に沿って年度前半の状況を報告した。

(1) 生徒部より

○ 面接週間等を活用した4点固定の生活習慣確立について

○ 登下校中、公共交通機関内でのマナーについて

○ 中・高合同の体育祭に向け、高校だけの第2回目を開催し、新たな伝統づくりに向けた取組について

(2) 進路指導部より

○ 将来の自分の生き方・ありかたを考える機会として、大学の先生をお招

きして専門の講義をいただく「大学出張ナマ講義」の企画について

- 個人面談の充実について

(3) 入試広報部より

- 中高入試における塾との連携状況について
- 各学校案内会、入試説明会等に関するアンケートの満足度について
- 高校入試における公立中学校との連携状況について

(4) 国際部より

- 海外短期研修・海外修学旅行など、グランドデザインによる18プランの進捗状況について
- 次年度に向けた新たなグランドデザイン及びプロジェクトについて
- 国際インターンシップ及び姉妹校ネットワークの構築について

(5) 総務部より

- 相談体制の確立に向けた取組について
- カウンセラーと学年会独自の連携に関わる課題について
- 生徒の帰属意識を高める学校行事の在り方について

(6) 教務部より

- 次年度以降のシラバス作成の進捗状況について
- 民間の学習システムを活用した学習支援の状況について
- 授業改善に向けた相互授業参観の取り組み状況について
- 教育改革を念頭においた校内研修会の内容及び状況について

3 評価委員からの意見及び助言

- ① インターンシップの内容はどのようなものを推進するのか。
- ② あまり大規模な内容でなくとも、地元広島にも実践できる場所は少なからずあるので、そのあたりも視野に入れて検討をしてはどうか。
- ③ 塾によっては説明会に城北が参加していないところもあるが、今少し塾との連携を重ねて城北の良さを伝える機会を増やしてはどうか。
- ④ 塾訪問等の年間計画を策定し、戦略的な情宣活動を考えてはどうか。
- ⑤ 不登校の生徒もいるようであるが、その取組状況や改善に向けた展望などを紹介して欲しい。
- ⑥ 修学旅行において弊社のベトナム支社でお世話することになったが、城北生の礼儀正しさ、質問内容、リアクションには正直感心した。

- ⑦ 企業の立場としては、たてまえではなく本音でお話しをしたつもりであったが、城北生は吸収力が高いなという印象を持った。企業側としてもたいへん勉強になった機会だと受け止めている。
- ⑧ 中学校の立場にいる者として、さまざまな角度からの取組が進んでいるという印象と、33年度を見据えた学校経営の策定がすでにスタートしているということには対応が早いという印象を持った。
- ⑨ 一人一人のこどもにどのように向き合っていけば良いのか、ということがしっかりと考えられていると思う。
- ⑩ 城北への帰属意識の涵養という考え方が、自分の学校に誇りを持つことになり、ねばり強い力をつけることができるのではないかなと思う。
- ⑪ 国際的なインターンシップ、海外体験を中学生、高校生のうちにしたかったという話を聞くことがあるが、そういう意味では先進的な取組だと思う。
- ⑫ 学校関係者評価委員の立場からすると、ここ数年関わってきたが年を重ねるごとに分かりやすい資料、分析になるよう工夫がなされていることを評価したい。事前に資料を郵送いただいていることも、自分なりの考えをもって参加できるのでありがたい。
- ⑬ 前日も申し上げたが、「自己評価」が今少し辛すぎるのではなかろうか。細かな分析をもって評価されると思うが、できたこと、あるいはできそうなことはもっと高く評価されても良いと思う。
- ⑭ 行事の話が出たが、行事をただ単に増やすということではなく、内容を精選されて新たに構築するという考え方も大切であると思う。
- ⑮ はじめての参加であったが、学校がいわば経営サイドの立場からこうした経営計画を策定されていることに新鮮さを感じた。
- ⑯ 保護者としても、さらに、城北に行って良かった、通わせて良かったと思える教育内容を極めていただきたい。
- ⑰ 今は時の流れが速すぎて、ついて行くのが大変な時代だと思っている。教育の世界も同じだと感じるところがある。さらに、城北らしさを前面に賀して教育活動を推進していただきたい。